



令和 6 年 10月 29日(火) 例会 (第2923回) 報告 (晴) №2751

出席率 26/36 72.22% 第2921回補正出席率 35/39 89.74%

欠席者 吾郷、喜多村、小板、佐藤、島谷、清水、中村、堀田、松本(勝)、村山

メークアップ(インフォ) 3名 (行動計画リーダー研修) 中田

出席免除 足立、岡空、酒井(英)、藤瀬、増谷、渡辺(昇)

◆会長時間 酒井博淳 会長

先週の土曜・日曜に歯科医療管理学会がありました。今年は松江で開催でした。2008年から日本の総人口が減少に転じています。益々、労働力人口は減少します。各業種で人手不足は加速するのではないか? 講演で「院内業務の効率化を図る上での、歯科助手活用の可能性についての考察」というのがあり、資格をもった歯科衛生士ではなく、歯科助手の役割を明確化することで人材不足の解消や可能性が広がる話でした。これからは歯科衛生士の確保にとらわれず、歯科助手の人材育成についても歯科医師会の業務で新たに考える必要性を認識した学会でした。

◆幹事報告 友森昌幸 幹事

◎榎原G事務所より「地区大会礼状」「行動計画推進リーダー研修案内」 ◎坂口GE事務所より「次期R財団委員長研修・地区補助金セミナー案内」「坂口GE国際協議会壮行会案内」 ◎津山RCより「友誠夫PG訃報」 ◎「ハイライトよねやま第295号」「文庫通信388号」が届く ◎次週は例会後に「11月定例理事会」

◆四つのテスト唱和 松井尚成 職業奉仕委員

◆委員会報告

◎未来委員会…赫 太郎 委員長

東京調布RCから協力依頼があり「調布市福祉まつり」に提供できる商品のお願いを会員各位に配信しました。当日はイベント会場で販売のため、常温品が望ましいとのこと。協力できる商品がありましたらよろしくお願ひします。

◆11月行事予定(ロータリー財団月間)

- 11/10(日) 東京調布RC友好クラブ調印式(調布クレストンH)
- 11(月) 東京調布RC例会出席、調布市長訪問
- 17(日) 第29回アダプト草刈り清掃(9時~ 2-a区画)
- 18(月)~22(金) 第1回夜話集会(18:30~ ペッシェ)
- 19(火) 休会(定款7条)

◆例会変更

☆米子東RC 11/13(水) 休会(定款) ビジター受付無

スマイルBOX

◎堀田支社長、松本支局長をお迎えして。卓話、楽しみにしています。 酒井(博)、上田、小林、庄司、谷田、赫、中田、浜田(貴)、山崎、鷺澤 ◎高校野球中国大会の準決勝が今週土曜日にあります。あと1勝で甲子園!保護者会長として頑張ります。 渡邊(冬) ◎所用のため早退します 木村、北國 ◎スマイルに協力 黒田

今回(11月5日) プログラム

「調布市・水木先生のおはなし」

木村正明 会員

次回(11月12日) プログラム

「決断の美学、そして気付いたこと!」

(株)Sea-Noise 代表取締役 宮崎哲人 氏

12/11(水) クリスマス家族会 ビジター受付あり

☆米子南RC 11/18(月) 例会振替 ビジター受付無

12/16(月) 休会 ビジター受付無

☆米子中央RC 11/21(木) 休会(定款) ビジター受付無

11/28(木) 移動例会 ビジター受付あり

— プログラム —

「地方紙の取材現場」

(株)新日本海新聞社 境港支社長 堀田裕史 氏

これまで経験した印象深い取材を通じ、地域で新聞が果たす役割について話します。



米子市の経済関係を担当していた1992年にダイエー、93年にジャスコの進出計画が明らかになりました。既に米子市には店舗面積1万平方㍍を超える大型店が5店あり、新規出店は大きなインパクトがありました。計画を紙面で伝えるとともに地域の消費者、中小商業者、まちづくりなどにどのような影響が予想されるのか、関係者を取材してまとめた記事なども掲載しました。

当時、規制緩和という全国的な大きな流れがありました。そうした中で地域に何が起こっているかを伝えることが地方紙の役割の一つと考えます。今後とも地域の役に立つ情報を届けようと思います。

「取材での気づきを実践へ」

(株)山陰中央新報社 境港支局長 松本稔史 氏

境港支局に3年前から勤務し、境夢みなどターミナル寄港のクルーズ客船を取材する中、訪日乗船客らに向けて地元商業者らの出展ブースが並んでいることに気づきました。



拝見して美術工芸品が少ないことが分かり、旧知の大家周辺の動向からも「売れる」と確信し昨年秋から家内を含む島根県東部の工芸作家6人で随時出展。結果を出しています。

特に欧州の富裕層に好評で、訪問先の花景色が購入動機になった品もありました。さらなる購入につなげたく複数メンバーが出展するECサイト情報もブースで提供しています。

2030年に訪日客数6千万人、旅行消費額15兆円を目指す中、山陰にも磨けば光るものはまだあります。なにげない新聞記事から気づかれることもあるかもしれません。